

福井県ふるさと文学館報

第3号

いあいこより

館長 西澤 弘純

当館は平成二九年二月一日をもって開館二周年を迎えました。これまで県内のみならず県外からも多くの方々にご来館いただき、ありがたく感じております。関係各位に御礼申し上げます。

今年度は春の新収蔵品展にはじまり、夏の「日本ミステリー文学展」、秋の「中野重治展」「文学からくり箱展」、そして冬の「幕末の福井を描いた作家たち展」の各企画展を開催いたしました。皆様には、展示を通して、福井ゆかりの文学への理解を深め、親しみを感じていただけたのではないかと思います。また、関連事業として、直木賞作家・黒川博行氏など著名作家の講演会や文学講座とともに、昨年度から引き続き開講している「ふくい文学ゼミ」など創作活動を支援する事業等も実施し、様々な文学の楽しみ方を提案できたと思います。

昨年一〇月には当館の特別館長である津村節子氏が文化功労者に顕彰されました。津村氏ゆかりの文学賞である「ふくい風花随筆文学賞」は今年で二〇周年となり、応募数も過去最多となる四三九二編を数えたことと合わせ、本当に喜ばしく思っています。

また、今年度も作家のご遺族等から貴重な資料をご寄贈いただき、資料の充実を図ることができたことに深く感謝いたします。

今後も福井の文学の素晴らしさを紹介するため、斬新で本格的かつ、美しい企画展や文学に関連した多彩なイベントなどの開催に努め、文学に親しむ機会をできるだけ多く創ってまいりますので、引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。

企画展

新収蔵品展

会期 四月三日(土)～六月二六日(日)

開館後新たに収蔵した資料を中心に展示、紹介しました。二〇一六年が没後二〇年にあたる山本和夫のご子息の山本祐夫氏より貴重な資料を数多く寄贈いただきました。書や色紙、書簡をはじめ、世界を旅した際に描いたスケッチや油絵、自画像など、多数の自筆資料によってその業績を紹介しました。また、水上勉作品の挿画を多く手掛ける司修氏の作品の中から『父と子』の挿画などを合わせて紹介し、司氏の講演会も行いました。



日本ミステリー文学展

～藤田宜永からの招待状～

会期 七月一六日(土)～九月一日(日)

夏季企画展では、福井ゆかりのミステリー作家や作品を中心に、明治期に海外の作品が日本に持ち込まれてから、文学の一ジャンルとして多くのファンを持つまでになったミステリー文学の魅力を紹介しました。

第一章では、日本ミステリー文学の始まりとして、多くの海



外ミステリーを日本語で翻案、紹介した黒岩涙香、その後日本オリジナルのミステリーを生み出した江戸川乱歩、横溝正史、松本清張など、現在のミステリー文学につながる大きな流れを作った作家たちとその作品に焦点を当てました。

第二章では、福井県ゆかりのミステリー作品とその作家たちを紹介。作品の舞台となった県内スポットをまとめた「福井県ミステリー文学マップ」や、現役作家が本展のために書き下ろした自筆の自作解説原稿なども展示しました。また、文庫版横溝正史作品の表紙画を多数手がけた、越前市出身の画家・杉本一文氏の原画と文庫本を一堂に展示しました。

第三章では、福井県出身で直木賞作家である藤田宜永氏の歩みと作品の魅力を紹介。現在も使っている地図、雑誌など多数の執筆資料を藤田氏より出品いただきました。また、小説家となる上で大きな影響を受け、何度も読み返したという吉行淳之介作品の自筆原稿や、藤田氏自宅の書斎再現コーナー、撮りおろしインタビュー映像なども交え、氏の作品世界を存分に体感できる展示になりました。

また会期中、藤田氏の講演会や展示をヒントにクイズを解く「謎解きゲーム」、県内施設を回るスタンプラリーも開催。大人から子どもまで楽しんでいただきました。



中野重治展

ふる里への思い、そして闘い

会期 一〇月一五日(土)～二月一八日(日)

中野重治は一九〇二年、福井県坂井郡高椋村(現、坂井市丸岡町)に生まれ、祖父母と農村で暮らす中で、ふるさとの言葉や考え方を身に付け、美意識を育みました。「私は私を生み育てた郷土に対して感謝の思いを持つ、それを書きあらわすことは文芸に従うものの一種の内面的義務にもなる」と、生涯にわたりふる里を思い、書き続け、幼少期の農村での暮らしを描いた自伝的長編小説『梨の花』では読売文学賞を受賞しています。

また、東京帝国大学進学後、プロレタリア文学の新時代を担いましたが、昭和初期、治安維持法違反で検挙され転向します。言論統制の厳しい社会情勢の中でも書き続けることを決意し、困難な時代と向き合いながら、小説「村の家」などの転向五部作を執筆しました。その後も、政治と文学の問題を生涯にわたり追究し続け、小説「甲乙丙丁」で野間文芸賞を、また小説、詩、評論など多年にわたる文学上の業績で朝日賞など数々の賞を受賞しました。文学者として多くの仕事を成し遂げた中野は、今は先祖とともにふる里の坂井市丸岡町の中野家の墓地、大岡さんまいに眠っています。本展覧会では、獄中から家族へ送られ



手紙や日記、原稿や愛用品など全国の文学館等に所蔵される中野重治の資料や妹鈴子の自筆遺言などを紹介しました。また、福井大地震や告別式の記録映画「偲ぶ・中野重治」、宇野重吉の「梨の花」朗読などの映像や音声から、中野重治の生きた時代を間近に感じることのできる展示になりました。

文学からくり箱展

「ムットーニの世界」

会期 一〇月一五日(土)～二月一八日(日)

文学からくり箱展では、自動人形師・武藤政彦氏が制作するからくり箱作品「ムットーニ」を紹介しました。光と音と人形の動きで様々な物語世界を表現する「ムットーニ」の中でも、世田谷文学館が所蔵する「猫町」(原作：萩原朔太郎)、「月世界探険記」(原作：海野十三)、「山月記」(原作：中島敦)、「漂流者」(原作：夏目漱石)、「眠り」(原作：村上春樹)や、当館所蔵の「おそろしいものが」(原作：高見順)など、文学をモチーフにした作品を中心に九点を一挙展示。会期中には、武藤氏本人による作品解説や口上を交えた上演会を開催し、参加者は長い時間を経て読み継がれてきた文学作品の魅力とともに、現代アーティストが生み出す幻想的な物語世界を堪能していました。



幕末の福井を描いた作家たち展

会期 平成29年一月二八日(土)～四月九日(日)

幕末の福井を題材にした歴史小説とそれを描いた五人の作家(吉村昭、司馬遼太郎、山本周五郎、有明夏夫、大島昌宏)にスポットをあてた展覧会を開催しました。

歴史小説の名手として知られる吉村昭は、天狗党事件を題材に短編「動く牙」を執筆し、その後再度、長編『天狗争乱』に取り組みました。製本された分厚い『天狗争乱』の自筆原稿、天狗党の行程や調査資料をメモした取材ノートからは、吉村の事件に対する深い追究を読み取ることができます。

また、有明夏夫のエッセイ原稿「小説と私」を初公開。自身初の歴史小説「幕末早春賦」が編集者に好評だったことが綴られています。このほか、大島昌宏の『そろばん武士道』自筆原稿や山本周五郎が晩年使用した万年筆などの愛用品を展示し、作品とともに紹介しました。

これら文学資料とあわせて、由利公正が記した「議事之体大意」(「五箇条の御誓文」の原型)や、橋本左内が主君を想う気持ちを綴った自筆書簡、松平春嶽が晩年書き留めた幕末期に関する随筆などの歴史資料を展示し、時代背景や福井ゆかりの人物の活躍も紹介しました。また、作品を体感していただけるよう、吉村昭の同名小説が原作の映画「桜田門外ノ変」で使われた大砲(レプリカ)や、司馬遼太郎の小説「竜馬がゆく」などに登場する由利と坂本龍馬が会談した「たばこや」を再現したコーナーを設けました。文学とふるさとの歴史をあわせてお楽しみいただけたのではないかと思います。



常設展示コーナー

福井の春を描いた文学

足羽川の桜を描いた宮下奈都のエッセイ『はじめからその話をすればよかった』や俳人森田愛子が詠んだ春の句などを紹介しました。

期間 四月一六日(土)～六月二三日(水)

福井の文学・フレッシュパワー

期間(前期)四月一六日(土)～六月二三日(水)

(後期)六月二四日(金)～九月三日(木祝)

二〇一六年本屋大賞を受賞した宮下奈都氏をはじめ谷崎由依氏、舞城王太郎氏など今後さらなる活躍が期待される中堅若手の福井ゆかりの作家を紹介しました。

福井の夏を描いた文学

期間 六月二四日(金)～八月二四日(水)

福井の海岸を描いた花村萬月『たびを』や、半夏生鯖が登場する有明夏夫『幕末早春賦』など夏に句をむかえる食材が登場する作品を紹介しました。

福井の秋を描いた文学

期間 八月二六日(金)～十一月三日(水・祝)

西福寺の紅葉を描いた立原正秋『心のふるさとをゆく』やおろし蕎麦の美味しさを綴った津村節子『女の贅沢』などを紹介しました。

福井ゆかりの作家と芸術

期間 九月二四日(土)～十一月三日(水・祝)

芸術の秋にちなみ、高見順や水上勉など福井ゆかり作家の描いた絵画や関連品を展示しました。



白川静に影響を受けた文学者と漢字

期間 一〇月二日(金)～二月三日(水)

白川静博士没後一〇年にあたり、宮城谷昌光氏や村上春樹氏など、白川文字学に影響を受けた作家や文筆家を紹介しました。

福井の冬を描いた文学

期間 一月二五日(金)～三月二日(水)

冬の味覚越前がにの魅力綴った開高健『開口一番』や、越前水仙を紹介した俵万智『風の組曲』などを紹介しました。

福井ゆかりの作家と映画

期間 一月二五日(金)～三月二日(水)

一月二日の映画の日になみ、福井ゆかりの作家の映画化された作品や映画に関する評論、当時のパンフレット、チラシなどを展示しました。

タイムリースポット

「高見順賞特集」 期間 三月二五日(金)～六月二日(水)

第四六回高見順賞を受賞した本県出身の詩人・川口晴美氏の受賞作やサイン本などを紹介しました。

「ゆかり作家の文学忌 春夏編」 期間 六月二四日(金)～八月二四日(水)

葱忌(則武三雄)や荒磯忌(高見順)、くちなし忌(中野重治)など、春夏に県内で行われる文学忌を紹介しました。

「ゆかり作家の文学忌 秋冬編」 期間 八月二六日(金)～十一月二日(水)

柏翠忌(伊藤柏翠)や帰雁忌(水上勉)など、秋冬に県内で行われる文学忌を紹介しました。

「天災を詩に刻む」 期間 一月二七日(金)～三月三日(水)

福井地震や東日本大震災等、福井ゆかりの詩人たちが災害を詠った詩を紹介しました。



教育普及活動

作家講演会

一〇月に行った黒川博行氏の講演では、専業作家になって収入が激減し後悔したという作家生活のスタートから、現在の締め切りに追われる人気作家としての生活についてお話しいただきました。新聞記者や退職警官から集めた話を参考に徹底した取材を行い、常に細部へのこだわりを持って面白さを徹底的に追求するという黒川氏の創作への姿勢が伝わる講演会でした。

二月には窪美澄氏の講演会を開催。担当編集者を聞き手に、デビューまでの道のりや作家としての生活、作品に対する思いなどをお話しいただきました。存在しない人物をこの世に生み出す創作活動の怖さを語る一方で、自分の周りで起きていることを書き残すのも作家の仕事であると、こだわりものぞかせました。

三月には赤川次郎氏の講演を行い、幼少時からの読書歴や初の執筆作品、書くことの意義などについてお話しいただきました。「小説は人物の魅力が大切」と赤川作品の人気の理由を伺い知ることができました。



オーサートーク

若者に人気の作家が高校を訪問して出前授業を行う「オーサートーク」作家による出前授業」を県内四校で開催しました。「ぼくは明日、昨日の君とデートする」が一〇〇万部を突破し、同作



が映画化もされた作家・七月隆文氏が、一月一七日に科学技術高校、一八日に仁愛女子高校を訪れ、作家としての生活や映画撮影時のエピソードなどを語りました。挫折の経験をお話され、「夢は思った形では叶わないかもしれないが継続することは力になる」と若い世代にメッセージを贈りました。また、自身の体験から「読んでいるときに嫌なことを忘れられるものが書きたい」という思いも語り、七月作品の魅力の一端を伺うことができました。

また、『〇〇回泣くこと』や『デビクロくんの恋と魔法』がベストセラーとなり、『トリガール！』が映画公開予定の作家・中村航氏が、二月一四日に美方高校、一日五日に丹生高校を訪問しました。作家になるまでの経緯や執筆の様子、作家仲間との交流のエピソードをお話され、「好奇心を持って、何でもやってみようと思うことが大切」と語りかけました。「書くことによつて理解や思考が深まるので、自分の考えていることを文字に表わす習慣をつけると良い」と書くことの大切さも述べました。

文学カフェ

福井ゆかりの作家やその研究者などから直接お話を伺い、交流して福井の文学に対する理解を深めました。

九月には、第四六回高見順賞を受賞した小浜市出身の詩人・川口晴美氏を講師に開催しました。前半は、川口氏に詩作のきつ



かけや詩との関わりを話していただきました。子どもの頃から小説を読んだり書いたりすることが好きだった川口氏は、大学の授業で詩に出会い、その自由さにおもしろみを感じて詩の道に進んだとのことでした。また、最新作『Trigger is here』について、東日本大震災でふるさとを離れざるを得なくなった人々を目の当たりにし、あらためて自分にとってのふるさとに向かうところから始めた、と作品に対する思いを語りました。後半は、参加者が朗読した自作の詩に対して、川口氏が丁寧にアドバイスを送りました。



ふくい文学ゼミ

昨年度に引き続き、通年の小説講座「ふくい文学ゼミ」を開講しました。高校生から四〇代までの二〇名が参加し、キャラクターの作り方や取材の方法、視点についてなど基本的な小説の書き方の講義を受けて基礎力を身につけながら、課題作品を受講生全員で合評して実践力を磨きました。一〇月末には昨年度一学期の作品集『午前零時』を刊行し、図書館や文化施設、大手出版社などに送付しました。ふるさと文学館や県内図書館での貸出も行っていますので、ぜひ読んでみてください。

出前文芸創作教室

県内で活躍する歌人や俳人が学校を訪問し、直に創作のノウ

ハウを学べる出前教室を行いました。今年は中学校にも事業を拡大し、七月五日に越前町立織田中学校で俳人の中内亮玄氏が授業を行いました。俳句の歴史をわかりやすく説明した後、青春を詠んだ先人の句を用い、季節にあたる部分を考える活動を行いました。また、一月一三日には敦賀市立松陵中学校で歌人の北野よしえ氏が授業を行いました。短歌の構成や表現の工夫を音読で体感し、日常の小さな発見や心の動きを言葉で表現することを話しました。生徒たちは俳句や短歌に対する理解を深め、言葉で自己表現することの楽しさを感じることができたようです。



創作講座

一般向けの創作講座として文章講座、俳句講座を開催しました。文章講座ではさまざまな文筆家の方に文章の書き方や磨き方についてお話しいただきました。アイデアをメモする、好きな作家の文章を読み、まねるといった書く前の心構えやポイント、文章で思考するトレーニングや音読する推敲法などすぐに実践できる上達法を学びました。また、俳句講座では、基本的な俳句の作り方、着眼のポイントなどを学んだあと、参加者全員が庭園を散策して作句し、句会を行いました。



平成28年度に開催したイベント一覧

期日	イベント名	場所	期日	イベント名	場所
4/10(日)	フォト575	文学館エトランス	10/15(土)	第8回文学カフェ(林淑美氏)	研修室
4/23(土)	司修氏講演会	多目的ホール	10/15(土)	ムットーニ上演会	展示ゾーン
4/29(金・祝)	キッズ文学シネマ「ごんぎつね」[金子みすゞ]	映像ルーム	10/23(日)	昭和文学キネマ「蟹工船」	映像ルーム
4/29(金・祝)	こいのぼり de 575	文学館エトランス	11/6(日)	昭和文学キネマ「太陽のない街」	映像ルーム
4/30(土)	講演会をもう一度(万城目学講演会録画上映会)	映像ルーム	11/12(土)	ムットーニ上演会	展示ゾーン
5/3(火・祝)	ふるさとの昔話を聞こう! (栢谷洋子氏)	映像ルーム	11/17(木)	オーサートーク(七月隆文氏)	科学技術高校
5/4(水・祝)	キッズ文学シネマ「十五少年漂流記」	映像ルーム	11/18(金)	オーサートーク(七月隆文氏)	仁愛女子高校
5/5(木・祝)	キッズ文学シネマ「ゼロ弾きのゴースト」[どんぐりと山猫]	映像ルーム	11/19(土)	第9回文学カフェ(壁井ユカコ氏)	研修室
5/22(日)	第5回文学カフェ(谷崎由依氏)	研修室	11/20(日)	昭和文学キネマ「火垂るの墓」	映像ルーム
5/28(土)	ジュニア文学カフェ(南部くまこ氏)	多目的ホール	12/4(日)	昭和文学キネマ「真空地帯」	映像ルーム
6/18(土)	第6回文学カフェ(山本祐夫氏)	研修室	12/10(土)	第4回ふくい文学ゼミ	研修室
7/2(土)	第1回ふくい文学ゼミ	研修室	12/13(火)	出前文芸創作教室(北野よしえ氏)	松陵中学校
7/5(火)	出前文芸創作教室(中内亮玄氏)	織田中学校	12/14(水)	オーサートーク(中村航氏)	美方高校
7/16(土)	第1回文章講座(山下裕己氏)	研修室	12/15(木)	オーサートーク(中村航氏)	丹生高校
7/24(日)	ミステリー文学キネマ「八つ墓村」	映像ルーム	12/18(日)	ムットーニ上演会	展示ゾーン
7/31(日)	ミステリー文学キネマ「事件」	映像ルーム	1/15(日)	第3回文章講座(瀬川あづさ氏)	研修室
8/6(土)	藤田宜永氏講演会	多目的ホール	1/26(木)	出前文芸創作教室(中内亮玄氏)	盲学校
8/11(木・祝)	ミステリー文学キネマ「名探偵ホームズ」	映像ルーム	1/29(日)	第10回文学カフェ(桂美人氏)	研修室
8/20(土)	第2回ふくい文学ゼミ	研修室	2/4(土)	第5回ふくい文学ゼミ	研修室
8/28(日)	ミステリー文学キネマ「怪人二十面相」	映像ルーム	2/5(日)	窪美澄氏講演会	多目的ホール
9/2(金)	出前文芸創作教室(加畑霜子氏)	武生高校定時制	2/11(土・祝)	時代小説キネマ「道場破り」	映像ルーム
9/4(日)	俳句講座(中内亮玄氏)	研修室	2/12(日)	第11回文学カフェ(水城ゆう氏)	研修室
9/8(木)	出前文芸創作教室(相野万里氏)	武生商業高校	2/26(日)	時代小説キネマ「桜田門外ノ変」	映像ルーム
9/10(土)	ミステリー文学キネマ「ゼロの焦点」	映像ルーム	3/4(土)	ふくい風花随筆文学賞授賞式・赤川次郎氏講演会	多目的ホール
9/11(日)	第2回文章講座(地永進男氏)	研修室	3/12(日)	時代小説キネマ「暗殺」	映像ルーム
9/18(日)	第7回文学カフェ(川口晴美氏)	研修室	3/25(土)	第12回文学カフェ(葉山桂氏)	研修室
10/1(土)	第3回ふくい文学ゼミ	研修室	3/26(日)	時代小説キネマ「狼よ落日を斬れ」	映像ルーム
10/2(日)	黒川博行氏講演会	多目的ホール			

寄贈資料の紹介

資料1 「中野鈴子関連資料」

中野鈴子の自筆遺言等を寄贈いただきました。詩人中野鈴子は昭和三〇年に処女詩集「花もわたしを知らない」を出版、その三年後、五一歳の短い生涯を閉じました。遺言は兄重治や妹美代子らに宛てたもので、執筆活動をしなから耕作を続けてきた田畑の分配のことや、家族への感謝の思いが綴られています。

資料2 「橘曙覧屏風」

自然の風景などを題材にした橘曙覧の著作「活哉集」に掲載されている「初ゆき」「田家鳥」の内容を記載したもので、稀少な曙覧直筆資料です。



資料3 「有明夏夫関連資料」

自筆資料や愛用品、蔵書など約二五〇〇点の資料を寄贈いただきました。有明のデビュー作「FL無宿のテーマ」の草稿が書かれたノートや、遺作となった「噴きあがる潮続」の原稿、直木賞正賞の時計など、その一部を展示室でも紹介しました。



平成二八年度に貴重な資料を寄贈された左記の方々に御礼申し上げます。
 暖目卯女様、草原光啓様、能登素様、森山透様、山本祐夫様

(五〇音順、平成二九年二月末現在)

お知らせ

資料寄贈のお願い

文学館では、福井の文学に関する資料を網羅的に収集、保存し、次の世代に継承するとともに展示や研究などで活用してまいります。福井ゆかりの作家や作品に関する資料（自筆原稿、書簡、書画、挿絵、愛用品、写真、映像等）がございましたら、文学館まで寄贈くださいますようお願いいたします。

メルマガ配信始めました

一二月からメルマガジン「ふるさと文学館ニュースレター」の配信を始めました。企画展などの展示案内、作家講演会や文学カフェなどのイベント情報など文学館に関する情報を随時お届けしています。ぜひご登録ください。

メールマガジンの登録↓「eマガガふくい文学館」で検索

また、ホームページでは展示、イベントの詳細情報、フェイスブックでは最新情報や職員のつぶやきなどを発信しています。こちらもぜひチェックしてみてください。



編集後記

館報第三号は、平成二八年度の活動を中心にお届けしました。企画展はもちろん常設展示の特集コーナーでも、さまざまな切り口で福井の文学に親しむ機会を提供することができたのではないかと感じております。今後も企画展を中心に、講演会や講座などのイベントも充実させ、さらに福井の文学の魅力を発信することに努めたいと思います。



ふるさと文学館へは、フレンドリーバス(無料)が便利です。福井駅東口バスターミナルから30分間隔で運行(約15分)

観覧料：無料
休館日：毎週月曜日(休日の場合は翌日)、祝日の翌日(翌日が土日の場合は除く)、年末年始、資料点検期間、第4木曜日(月によって変更あり)
開館時間：平日 9時～19時、土日祝 9時～18時

福井県ふるさと文学館報 第3号

発行日 平成29年3月31日
創刊日 平成27年3月31日

発行所 福井県ふるさと文学館
福井市下馬町 51-11
TEL : 0776-33-8866
http://www.library-archives.pref.fukui.jp
https://www.facebook.com/fukuibungaku/

